

# 日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2018—

(大学・短期大学部・専門学校)

## 点検・評価結果及び改善意見

**【生物資源科学部, 生物資源科学研究科, 獣医学研究科】**

## 目 次

基準Ⅰ	教育課程・学習成果 .....	1
基準Ⅱ	学生の受け入れ .....	11
基準Ⅲ	教員・教員組織 .....	15
	生物資源科学部，生物資源科学研究科，獣医学研究科の改善意見 .....	20

## 基準 I 教育課程・学習成果

### 点検・評価項目①

授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、学士（生物資源学）及び学士（獣医学）の学位ごとの学位授与方針を定め、学外向けにはウェブサイトや学部ガイドブック、学内向けには学部要覧に掲載し公表している。

方針の作成は、「教学に関する全学的な基本方針」及び「日本大学教育憲章」の趣旨に基づき、学務委員会を中心に原案を作成し、各学科で検討を行った後、教授会での審議を経て策定したものである。また、方針では、知識、技能、態度等の具体的な到達目標を明示している（資料 1-1, 1-2, 1-6）。

##### <生物資源科学研究科>

生物資源科学研究科では、学位単位ではなく、研究科単位の学位授与方針を定め、その中で、前期課程と後期課程を分けて記載している。学外向けにはウェブサイト及び大学院ガイドブック、学内向けには大学院要覧に掲載し公表している。

方針は、「教学に関する全学的な基本方針」及び「日本大学教育憲章」の趣旨を踏まえた上で、各専攻の主任を中心に原案を作成し、学務委員会及び分科委員会での審議を経て策定したものである。また、方針では、各課程の課程修了の目安とする、知識、技能、態度等の「要求事項」を明示している（資料 1-1, 1-7, 1-8）。

##### <獣医学研究科>

獣医学研究科では、学位単位ではなく、研究科単位の学位授与方針としている。学外向けにはウェブサイト及び大学院ガイドブック、学内向けには大学院要覧に掲載し公表している。

方針は、「教学に関する全学的な基本方針」及び「日本大学教育憲章」の趣旨を踏まえた上で、専攻主任を中心に原案を作成し、学務委員会及び分科委員会での審議を経て策定したものである。また、方針では、獣医学専攻の6つの専門分野におけるそれぞれの目標となる知識、技能及び態度等を示している（資料 1-1, 1-7, 1-8）。

### 点検・評価項目②

授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、学士（生物資源学）及び学士（獣医学）の学位ごとの教育課程の編成・実施方針を定め、学外向けにはウェブサイトや学部ガイドブック、学内向けには学部要覧に掲載し公表している。

方針は、学務委員会を中心に原案を作成し、各学科で検討を行った後、教授会での審議

を経て策定したものである。方針では、教育課程の編成方針とそれに基づく授業科目区分及び区分ごとの科目の授業形態などを示している（資料 1-1, 1-2, 1-6）。

#### <生物資源科学研究科>

生物資源科学研究科では、学位単位ではなく、研究科単位の教育課程の編成・実施方針とし、その中で、前期課程と後期課程を分けている。学外向けにはウェブサイト及び大学院ガイドブック、学内向けには大学院要覧に掲載し公表している。

方針は、「教学に関する全学的な基本方針」及び「日本大学教育憲章」の趣旨を踏まえた上で、各専攻の主任を中心に原案を作成し、学務委員会及び分科委員会での審議を経て策定したものである（資料 1-1, 1-7, 1-8）。

#### <獣医学研究科>

獣医学研究科では、学位単位ではなく、研究科単位の教育課程の編成・実施方針として学外向けにはウェブサイト及び大学院ガイドブック、学内向けには大学院要覧に掲載し公表している。

方針は、「教学に関する全学的な基本方針」及び「日本大学教育憲章」の趣旨を踏まえた上で、専攻主任を中心に原案を作成し、学務委員会及び分科委員会での審議を経て策定したものである（資料 1-1, 1-7, 1-8）。

### 点検・評価項目③

教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、学士（生物資源学）及び学士（獣医学）のそれぞれの教育課程の編成・実施方針に基づき、各学科の履修系統図において科目群ごとの目標を提示し、目標に沿った体系的な教育課程を編成している。

具体的には低学年から高学年に進むにつれて、より実践的かつ難易度の高い科目を配置し、また、学修の集大成として卒業研究（獣医学科は卒業論文または臨床研究）を配置している。単位は1単位当たり45時間の学修をもって付与することを前提とし、授業時間内での学修は、学則に則り、講義科目15時間、演習科目（含む外国語及び体育実技）30時間及び実験・実習科目45時間の学修をもって、それぞれ1単位を付与している。

教養教育と専門教育及び高校と大学での教育を繋ぐ科目群として、専門基礎科目を設置している。具体的には、「自主創造の基礎Ⅰ」を通じて、大学生としての能動的な学習を導く教育を行い、「生物資源科学概論」では、専門教育への導入として、現代社会と本学部の学問領域がどのように関連しつながっているのか教えている。また、「生物資源科学フィールド実習」では、学生の所属学科では実施していない内容の実習をキャンパス内の農場のほか、付属施設である水上演習林（群馬県水上市）、下田臨海実験所（静岡県下田市）、富士自然教育センター（静岡県富士宮市）を使用して行っている。本実習は3泊4日の日程で行われ、実習の補助をする大学院生や教職員と寝食を共にし、自然を体感しながら農学を学ぶ機会を提供している。また、各学科の専門科目のうち「概論」や「基礎実験」では、

初年次学生に対し大学における「学修」がどのようなものなのかを教授している。

獣医学科は、獣医学教育を行う全大学共通の「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づきカリキュラムの約2/3の科目が配置され、また、残りの約1/3の科目においても、モデル・コア・カリキュラムとの連続性を意識した応用科目を配置している（資料1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 1-5, 1-12, 1-13）。

#### <生物資源科学研究科>

（博士前期課程）

生物資源科学研究科の教育課程の編成・実施方針に基づき、講義と研究のバランスを考えた教育課程を編成している。具体的には、既成の専門領域にとらわれない研究者や技術者の素養を磨かせることを目的として、1年次に5つの専攻を横断するオムニバス形式の講義科目、生物資源科学特論Ⅰ（必修）と生物資源科学特論Ⅱ（選択）を開講している。また、専門分野を学修するために各専攻に4または5分野を設定し、分野ごとに講義（特講）と演習の2科目のセットを2組編成することにより、順次性のある体系的な科目配置を実現している（資料1-1, 1-3, 1-4, 1-7, 1-8, 1-14）。

（博士後期課程）

生物資源科学研究科の教育課程の編成・実施方針に基づき、講義と研究のバランスを考えた教育課程を編成している。各専攻には4または5分野を置き、分野ごとに講義（特講）と演習の2科目をセットとして配置し、1セットの学修を必須としている。これにより専門分野の学修とともに研究分野に関連する領域を学修し、より幅広い視点から研究に取り組むことができる。また、各専攻から推薦された3名の学外の先端的研究者や著名な研究者による特別講義（5専攻×3名＝15名）を実施し、専攻に限定されない幅広い専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している（資料1-1, 1-3, 1-4, 1-7, 1-8, 1-14）。

#### <獣医学研究科>

獣医学研究科博士課程では、獣医学分野を横断し幅広い知識を身に付けるための科目として、オムニバス形式の講義科目、獣医学特論を必修科目として配置している。また、専門性を身に付けるため6つの専門分野を置き、分野ごとに講義、演習及び研究の3科目をセットとして配置し、最低2分野以上の学修を必須としている。付属家畜病院及び動物医科学センターと有機的な連携を行い、実践的かつ高度な専門知識の教授を行っている。また、斯界の著名な国内外の研究者を大学院講師として招聘し、専門性の高い特別講義を開催している。国内の大学及び研究機関より3名の講師を招聘し、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している（資料1-1, 1-3, 1-4, 1-7, 1-8, 1-14）。

#### 点検・評価項目④

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

#### 【現状説明】

#### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、新入生を対象に各種ガイダンスを開催している。履修登録ガイダンスでは、履修登録の重要性、単位認定方法、進級条件・卒業要件などについて新入生全

員参加のもと、教務課が直接説明している。さらに履修登録方法やGPA制度などについてまとめた「履修ガイドブック」を作成し、新入生全員に配布している。

学習支援センターでは、履修相談、教職、学芸員、奨学金、留学、就職など、幅広い相談に対応しているほか、リメディアル教育として「生物」、「化学」及び「物理」の授業を開講している。各学科の学級担任や研究室指導員により、履修指導や進路相談などを行い、また、入学後に実施した「生物・化学理解度テスト」の結果に基づき、適宜リメディアル教育の受講を学生に促している。

授業期間は前期 15 週及び後期 15 週を適切に確保している。また、1 年間の履修上限（キャップ制）を導入しているほか、シラバス上に、準備学修及び復習の内容を記載する欄を設け、1 単位当たり 45 時間の学修時間の確保に努めている。さらに、学生に配布する時間割冊子内に各学科の履修系統図を掲載し、各学科が行う年度初めのガイダンスにおいても、科目の順次性を意識した履修計画を立てるよう学生に促している。

各科目のシラバスには、準備学修及び復習の内容のほか、授業の目的、到達目標、授業方法、成績評価基準、履修条件、各回の授業内容などを記載している。シラバスに沿って、授業が行われているかについては、学期末の学生に対する授業評価アンケートにより確認を行っている。

授業では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるよう、授業計画（シラバス）作成時に教員に対して促しているほか、FD研修を通じて、アクティブ・ラーニングの手法など教育改善に努めている。1 号館にアクティブ・ラーニング向けの講義室があり、平成 30 年度中に図書館に「ラーニングコモンズ」を設置する予定である。また、e-Learning ソフト「StarQuiz」を導入し、授業内で授業理解度テスト等を行い、リアルタイムに習熟度を確認できる環境を整えている。

英語科目（必修）ではプレイスメント・テストを行い能力別のクラス編成を行っているほか、スポーツ実技、演習科目及び実験・実習科目においては、受講者の班を分ける等の措置を行い、適切な人数で授業ができるよう配慮している。

履修登録の未登録者や成績不振者については、各年次の履修登録時から学級担任を中心に不足単位数の確認や個別の指導を行っている。また、毎年 10 月に実施している保護者面談では、授業の出席状況や単位修得状況を保護者に確認していただくなどの対応を行っている（資料 1-2, 1-3, 1-9, 1-10, 1-15, 1-16, 1-17）。

## <生物資源科学研究科>

（博士前期課程）

生物資源科学研究科では、授業期間として前期 15 週間及び後期 15 週を適切に確保している。シラバス上に、準備学修及び復習の内容を記載する欄を設け、1 単位当たり 45 時間の学修時間の確保に努めている。

各科目のシラバスには、準備学修及び復習の内容のほか、授業の到達目標、履修条件及び各回の授業内容などを記載している。シラバスに沿って、授業が行われているかについては、学期末の学生に対する授業評価アンケートにより確認を行っている。

授業では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるよう、授業計画（シラバス）作成時に教員に対して促しているほか、FD研修を通じて、アクティブ・ラーニングの手法など教育改善に努めている。1 号館にはアクティブ・ラーニング向けの講義室があり、さ

らに、平成 30 年度中に図書館内に「ラーニングコモンズ」を設置する予定である。また、e-Learning ソフト「StarQuiz」を導入し、授業内で授業理解度テスト等を行い、リアルタイムに習熟度を確認できる環境を整えている。

研究指導については、学生は 1 年次に指導教員の元で修士論文の構想の構築を行い、研究計画を作成し、これに基づき研究を進めていく（資料 1-3, 1-7, 1-9, 1-16, 1-17）。

（博士後期課程）

生物資源科学研究科では、授業期間として前期 15 週間及び後期 15 週間で適切に確保している。シラバス上に、準備学修及び復習の内容を記載する欄を設け、1 単位当たり 45 時間の学修時間の確保に努めている。

各科目のシラバスには、準備学修及び復習の内容のほか、授業の到達目標、履修条件及び各回の授業内容などを記載している。シラバスに沿って、授業が行われているかについては、学期末の学生に対する授業評価アンケートにより確認を行っている。

授業では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるよう、授業計画（シラバス）作成時に教員に対して促しているほか、FD 研修を通じて、アクティブ・ラーニングの手法など教育改善に努めている。1 号館にはアクティブ・ラーニング向けの講義室があり、さらに、平成 30 年度中に図書館内に「ラーニングコモンズ」を設置する予定である。また、e-Learning ソフト「StarQuiz」を導入し、授業内で授業理解度テスト等を行い、リアルタイムに習熟度を確認できる環境を整えている。

研究指導については、学生は 1 年次に指導教員の元で博士論文の構想の構築を行い、研究計画を作成し、これに基づき研究を進める（資料 1-3, 1-7, 1-9, 1-16, 1-17）。

#### < 獣医学研究科 >

獣医学研究科では、授業期間として前期 15 週間及び後期 15 週間で適切に確保している。シラバス上に、準備学修及び復習の内容を記載する欄を設け、1 単位当たり 45 時間の学修時間の確保に努めている。

各科目のシラバスには、準備学修及び復習の内容のほか、授業の到達目標、履修条件及び各回の授業内容などを記載している。シラバスに沿って、授業が行われているかについては、学期末の学生に対する授業評価アンケートにより確認を行っている。

授業では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるよう、授業計画（シラバス）作成時に教員に対して促しているほか、FD 研修を通じて、アクティブ・ラーニングの手法など教育改善に努めている。1 号館にはアクティブ・ラーニング向けの講義室があり、さらに、平成 30 年度中に図書館内に「ラーニングコモンズ」を設置する予定である。また、e-Learning ソフト「StarQuiz」を導入し、授業内で授業理解度テスト等を行い、リアルタイムに習熟度を確認できる環境を整えている。

研究指導については、学生は 1 年次に指導教員の元で博士論文の構想の構築を行い、研究計画を作成し、これに基づき研究を進める（資料 1-3, 1-7, 1-9, 1-16, 1-17）。

#### 点検・評価項目⑤

成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

#### 【現状説明】

### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、成績の評価方法や評価基準は、科目ごとにシラバスに明示している。また、成績はGPAにより示され、学生は学期及び学年の平均値と累計の平均値を知ることができる。既修得単位の認定については、編入学時及び海外留学時の申し合せや取扱要領に基づき、既修得科目及び認定する科目のそれぞれの学修時間及び学修内容を比較した上で、適正かつ厳格に単位認定を行っている。

定期試験後の成績登録はWeb上で各科目担当教員により行われ、教務課により各学生の「単位履修表」が作成される。これらに基づき、各学科での確認を慎重かつ厳正に行う。

学位授与については、学位授与方針に則し、科目の履修により所定の修得単位を修め、卒業研究（論文）の取組や成果の発表等において十分な能力を有すると認められた者に対し学位を授与している（資料1-1, 1-2, 1-3, 1-11, 1-18, 1-19, 1-20, 1-21）。

### <生物資源科学研究科>

（博士前期課程）

生物資源科学研究科博士前期課程では、成績の評価方法や評価基準は、科目ごとにシラバスに明示している。また、成績はGPAにより示され、学生は学期及び学年の平均値と累計の平均値を知ることができる。また、既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき、適正かつ厳格な単位認定を行っている。

学位授与については、学位授与方針に則し、科目の履修により所定の修得単位を修め、研究科が開催する発表会を経て提出された修士論文の審査により、十分な能力を有すると認められた者に対し学位を授与している（資料1-1, 1-3, 1-7, 1-11, 1-18, 1-19, 1-20, 1-21）。

（博士後期課程）

生物資源科学研究科博士後期課程では、成績の評価方法や評価基準は、科目ごとにシラバスに明示している。また、成績はGPAにより示され、学生は学期及び学年の平均値と累計の平均値を知ることができる。また、既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき、適正かつ厳格な単位認定を行っている。

学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院生物資源科学研究科における学位（博士）申請手続（申し合せ）」に基づき、論文公表確認、専攻内、研究科における発表会の実施により客観性・厳格性が確保されている。また、学位授与方針に則し、科目の履修により所定の修得単位を修め、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査により、十分な能力を有すると認められた者に対し学位を授与している（資料1-1, 1-3, 1-7, 1-11, 1-18, 1-19, 1-20, 1-21）。

### <獣医学研究科>

獣医学研究科では、成績の評価方法や評価基準は、科目ごとにシラバスに明示している。また、成績はGPAにより示され、学生は学期及び学年の平均値と累計の平均値を知ることができる。また、既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき、適正かつ厳格な単位認定を行っている。

学位授与については、学位授与方針に則し、科目の履修により所定の修得単位を修め、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査により、十分な能力を有すると認められた者に対し学位を授与している。



学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院獣医学研究科における学位（博士）申請手続（申合せ）」に基づき、論文公表確認及び研究科における発表会の実施により客観性・厳格性が確保されている。また、学位授与方針に則し、科目の履修により所定の修得単位を修め、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査により、十分な能力を有すると認められた者に対し学位を授与している（資料 1-1, 1-3, 1-7, 1-11, 1-18, 1-19, 1-20, 1-21）。

## 点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

### 【現状説明】

#### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、平成 30 年度から開始した全学年の学生を対象とした日本大学学修満足度調査を通じて、学生の修学意欲や自己評価に基づき、在学中に獲得した技術や能力等の把握に努めている。今後、卒業時及び卒業生に対して同調査を実施することで、学修成果をより適切に把握する予定である。

獣医学科では、獣医師国家試験の合格率が学部教育の到達度を測る際のある種の指標として機能している。また、海洋生物資源科学科及び生物環境工学科では、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けたコースを開設しており、測定・評価が可能な学習成果が明示され、学習到達度の把握が効率的に実施されている（資料 1-22）。

#### <生物資源科学研究科>

（博士前期課程）

生物資源科学研究科博士前期課程においては、専攻内における研究の進展状況の中間発表及び研究科全体で行う修士論文発表会により学修成果の検証を行っている。修士論文の要旨については冊子にまとめ、公開している。また、大学院学生による学会発表、論文の公表や学会賞の受賞等は学修成果として評価している。

（博士後期課程）

生物資源科学研究科博士後期課程では、専攻内における研究の進展状況の定期的な中間発表を行い学習成果の確認をしている。また、大学院学生による学会発表、論文の公表や学会賞の受賞等は学修成果として評価している。

#### <獣医学研究科>

獣医学研究科の学修成果は、開講される講義への出席と課題レポートの内容、研究科内で実施される研究経過報告及び成果報告におけるプレゼンテーション及び質疑応答の内容により評価している。また、学位（博士）論文作成に関しては、基盤的・専門的な学識と国内外の学術集会での口演発表実績及び専門学術雑誌（英文）への投稿や掲載実績を重視している。

## 点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

## 【現状説明】

### ＜生物資源科学部＞

生物資源科学部では、平成 30 年度から開始した全学年の学生を対象とした日本大学学修満足度調査を通じて、学生の修学意欲や自己評価に基づき、在学中に獲得した技術や能力等の把握に努めている。今後、卒業時及び卒業生に対して同調査を実施することで、学修成果をより適切に把握する予定である。

各教員は学生による授業アンケートを最低 1 つの科目で実施しており、シラバスと授業内容との整合性、学生の授業時間外の学習時間数及び学生の理解度などを把握することができ、授業改善に役立てることが可能である。

生命農学科、生命化学科、海洋生物資源科学科及び生物環境工学科では、演習委員会や学生実験委員会などを設置し、これらの委員会を中心に演習や実験の授業内容の定期的な検証を行い、その結果を教育内容や方法の改善に結びつけている。また、海洋生物資源科学科及び生物環境工学科では JABEE の認証評価に伴う教育改善のための PDCA サイクルを実施し、教育の質の改善・向上に取り組んでいるほか、教員に対する学生の意見によるベストティーチャー賞を設け、教員の教育内容や方法の改善を推進している（資料 1-22, 1-23）。

### ＜生物資源科学研究科＞

（博士前期課程）

各教員は学生による授業アンケートを最低 1 つの科目で実施しており、シラバスと授業内容との整合性、学生の授業時間外の学習時間数及び学生の理解度などを把握することができ、授業改善に役立てることが可能である（資料 1-23）。

（博士後期課程）

各教員は学生による授業アンケートを最低 1 つの科目で実施しており、シラバスと授業内容との整合性、学生の授業時間外の学習時間数及び学生の理解度などを把握することができ、授業改善に役立てることが可能である（資料 1-23）。

### ＜獣医学研究科＞

生物資源科学研究科博士後期を参照

---

## 【長所・特色】

生物資源科学部、生物資源科学研究科及び獣医学研究科のある湘南キャンパスは 72 ヘクタールと広く、キャンパス内には農場、演習林、動物病院、バラ園、博物館、食品加工実習所などの施設がある。また、その他に、下田臨海実験所（静岡下田）、富士自然教育センター（静岡富士宮）、演習林（北海道八雲、群馬県水上、千葉県君津）などを有している。これらのキャンパス内外の施設を活用し、講義で学んだことを実地での実験や実習での経験を通して学修する実践的な「フィールドサイエンス教育」が本学部・研究科の特色である。

## 【問題点】

### ＜生物資源科学部＞

現在のシラバス様式においては、「授業外学習時間数」及び「フィードバックの方法」の欄が設けられていない。

学部の国際化の観点から交換留学や認定留学制度を利用して海外留学をした場合の、ゼミや卒業研究の対応について統一したルールが定められていない。

学生による授業アンケートを行っているが、アンケート結果に基づく授業改善の取組は、各教員に任されており、組織的な対応になっていない。

### ＜生物資源科学研究科＞

生物資源科学研究科は、学位課程ではなく、研究科の「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」となっている。

学生による授業アンケートを行っているが、アンケート結果に基づく授業改善の取組は、各教員に任されており、組織的な対応になっていない。

### ＜獣医学研究科＞

獣医学研究科は、学位課程ではなく、研究科の「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」となっている。

学生による授業アンケートを行っているが、アンケート結果に基づく授業改善の取組は、各教員に任されており、組織的な対応になっていない。

## 【全体のまとめ】

### ＜生物資源科学部＞

シラバス様式「授業外学習時間数」及び「フィードバックの方法」の欄を追加することを検討するとともに、単位の実質化を図るため、授業時間内と授業以外の学修時間を含めた授業の在り方を検討する。

交換留学や認定留学制度を利用して海外留学をした場合の、ゼミや卒業研究の対応について、統一したルールの策定を検討する。

学生による授業アンケートの結果、学生からの評価が一定の点数以下であった場合は、当該教員に対しどのように授業を改善するのかをまとめた授業改善計画書の提出を求めることを検討する。

### ＜生物資源科学研究科＞

生物資源科学研究科は、博士前期課程及び博士後期課程、それぞれの「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」を策定する。

学生による授業アンケートの結果、学生からの評価が一定の点数以下であった場合は、当該教員に対しどのように授業を改善するのかをまとめた授業改善計画書の提出を求めることを検討する。

### ＜獣医学研究科＞

獣医学研究科は、博士課程の「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」を策定する。

学生による授業アンケートの結果、学生からの評価が一定の点数以下であった場合は、当該教員に対しどのように授業を改善するのかをまとめた授業改善計画書の提出を求めることを検討する。

【根拠資料】

1-1	[生物資源科学部] ホームページ 教育情報（教育研究上の目的及び三つの方針） <a href="http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/">http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/</a>
1-2	平成 30 年度学部要覧（各学科の履修要項等（52 頁～104 頁）
1-3	ホームページ 授業計画（シラバス） <a href="http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~syllabus/18syl.html">http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~syllabus/18syl.html</a>
1-4	ホームページ カリキュラム <a href="http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/curriculum/">http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/curriculum/</a>
1-5	平成 30 年度授業開講科目時間割表
1-6	生物資源科学部ガイドブック
1-7	平成 30 年度大学院要覧（授業科目一覧等（25 頁））
1-8	日本大学大学院（2019 年度）生物資源科学研究科・獣医学研究科ガイドブック
1-9	ホームページ 年間授業計画 <a href="http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kyoumuka1/pdf/H30.jyugyoukankeiyotei.pdf">http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kyoumuka1/pdf/H30.jyugyoukankeiyotei.pdf</a>
1-10	履修ガイドブック 2018（履修登録上限単位数（5 頁））
1-11	日本大学学則第 1 章総則第 7 節履修規程
1-12	平成 30 年度フィールド実習募集要項
1-13	獣医学科開講科目一覧
1-14	平成 30 年度大学院特別講義一覧
1-15	リメディアル教育（平成 30 年度）
1-16	F D 活動記録
1-17	平成 30 年度授業計画（シラバス）作成入力マニュアル
1-18	編入学の取扱い基準
1-19	交換留学により履修した授業科目の単位認定に関する取扱
1-20	「日本大学認定留学制度」に関する取扱
1-21	サマースクール等の単位認定取扱い要項
1-22	日本大学学修満足度向上調査概要
1-23	授業に関するアンケート

## 基準Ⅱ 学生の受け入れ

### 点検・評価項目⑧

学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

生物資源科学部では日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの要素と8つの能力を踏まえつつ、学位の異なる獣医学科と他の学科でそれぞれ学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が策定され、これに基づいた学生の受け入れ方針を公表することにより受験生に求める能力、知識、意欲などを明示している。

これらについては生物資源科学部ホームページを始め日本大学進学ガイドや入学試験要項などの媒体で広く周知を図っているほか、オープンキャンパスや各種進学相談会においても説明がなされている。

また、平成30年度より受験生がなじみやすいスマートフォン等を使用し、QRコードを読み取る形で教育研究上の目的及び三つの方針が確認できるようにするなど公表の方法にも新たな試みを取り入れている（資料2-1, 2-2, 2-3）。

さらに入学を希望する障害のある学生については受験前に「事前協議」（志願者及び保護者、場合によっては高等学校教員と大学側で行う受験上及び修学上の打合せ）を行い、出願の是非を本人に判断してもらっている。

##### <生物資源科学研究科>

大学院においても学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が策定され、これに基づいた学生の受け入れ方針を公表することにより受験生に求める学生像を明示している。

また、入学するに当たり習得しておくべき知識等の内容を示す方法として年2回の大学院説明会において研究科の理念や受け入れ方針の説明の他、「何をするために大学院で研究を続けるのか」を問い、目的意識を持って進学することの重要性を説明している。

##### <獣医学研究科>

生物資源科学研究科を参照

### 点検・評価項目⑨

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

日本大学生物資源科学部では、学生の受け入れ方針を具現化するために、複数の受験機会と多様な入学試験を提供している。

一般入学試験では、生物資源科学に関わる英語の文献を読んだり、国際的なコミュニケーション能力を養ったりするための素養を判定するために、全ての志願者に英語の試験を課している。さらに自然科学の基礎知識や基礎的な数理能力、論理的思考力などの有無を

判定するために、学科毎に指定した2つの選択科目を課している。

推薦入学試験では、書類選考、国語・数学・英語から構成された基礎学力テスト（複合）及び面接により、志願者の能力や資質を総合的に評価し、国際地域開発特別推薦入学試験では国際地域開発学科への入学を第一志望とし、秀でた英語力を活かして発展途上国の開発・支援に将来携わりたいと考える人を受け入れるために、書類選考と英語での面接により総合的な評価を行っている。

これらの募集方法、入学者選抜方法、募集人員や試験科目の配点に関する事など詳細な点まで学部ホームページや受験産業が手掛ける各種サイト、Q&A入試ガイドなどの冊子で公開し、オープンキャンパス及び各種進学相談会では受験生一人ひとりに説明する機会を設けている。

また、入学者選抜に当たっては入試管理委員会で入試制度方針や実施方法を検討、教授会で入学試験合否判定基準が審議されたのち学部長が合格予定者を決定する（合格者の最終決定は学長）ことになっており、公正な入学者選抜を担保している（資料2-4）。

さらに、修学に当たり合理的配慮を求める入学希望者については受験前に「事前協議」（志願者及び保護者、場合によっては高等学校教員と大学側で行う受験上及び修学上の打合せ）を行い、合理的配慮の内容について協議する。

なお、事前協議を実施したことによる受験上の不利益は一切ないことについては受験生側に説明を行っている。

#### <生物資源科学研究科>

生物資源科学研究科では学生の受け入れ方針に基づき研究活動を支える十分な基礎学力及び教養を評価するため、英語・小論文・口述試験を課し、専攻ごとに独自の試験問題を用意している。

これらの募集方法、入学者選抜方法、募集人員、口述試験のポイント、試験科目の配点に関する事など詳細な点まで学部ホームページや大学院ガイドブックなどの冊子で公開し、大学院説明会では改めて入学希望者に説明をしている。

入学者選抜に当たっては入試管理委員会で入試制度方針や実施方法を検討、分科委員会で入学試験合否判定基準が審議されたのち研究科長が合格予定者を決定する（合格者の最終決定は学長）ことになっており、公正な入学者選抜を担保している。

#### <獣医学研究科>

生物資源科学研究科を参照

### 点検・評価項目⑩

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

#### 【現状説明】

#### <生物資源科学部>

『平成28年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について』（平成27年7月10日付）で通知のあった適正な定員管理の趣旨内容に従い合否判定を行っており、入学定員に対する入学者数比率については適正な管理ができています。

また、収容定員に対する在籍学生数比率についても適正な管理の範囲内であるが学級担任による修学及び生活指導や学習支援センターによるリメディアル教育の充実によりさらに理想的な数値へと移行している。

#### <生物資源科学研究科>

入学定員に対する入学者比率は研究科全体で100%を目指しているが平成30年度入試においても博士前期課程が約70%、博士後期課程が約40%といずれも目標に届いていないことから充足率の達成が望まれる。

#### <獣医学研究科>

獣医学研究科も生物資源科学研究科と同じく入学定員に対する入学者比率は100%を目指しており、平成30年度入試及び5年平均においても目標を達成している。

### 点検・評価項目⑪

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

#### 【現状説明】

##### <生物資源科学部>

生物資源科学部では5月実施の大学内部の監査に向け点検・評価を行い、報告をするとともに指摘事項を受けたものに関しては改善に向け検討を行っている。

##### <生物資源科学研究科>

生物資源科学部を参照

##### <獣医学研究科>

生物資源科学部を参照

---

---

#### 【長所・特色】

なし

#### 【問題点】

生物資源科学研究科の入学者が目標に満たない状況にあることから改善策を講じていく必要がある。

#### 【全体のまとめ】

『学生の受け入れ』で求められる点検・評価項目については、ほぼ全ての項目で実施・達成ができていていると考えているが、問題点で挙げている生物資源科学研究科における入学者比率の上昇に向け対策を講じていく必要があると考える。

**【根拠資料】**

2-1	入学試験要項
2-2	ホームページ 教育情報（教育研究上の目的及び三つの方針） <a href="http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/">http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/</a>
2-3	日本大学進学ガイド
2-4	日本大学生物資源科学部入学試験管理委員会に関する内規



## 基準Ⅲ 教員・教員組織

### 点検・評価項目⑫

大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

#### 【現状説明】

##### ＜生物資源科学部＞

生物資源科学部では、日本大学及び本学部の教育・研究理念を十分に理解した上で、社会的要請の高い教育内容と高度な研究能力を有し、多岐にわたる新規課題に対して柔軟に対応できる教員を求めている。教員組織の編制に当たっては、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」を制定し、教員に求める能力や資質を周知している。各学科では、学部のカリキュラムポリシーに則り、ディプロマ・ポリシーを達成するための学科目を配置している。主要学科目の授業は主に教授（一部准教授）が、関連科目は准教授・専任講師・助教が担当し、それぞれが密接な連携のもとに充実した専門教育を展開している。総合教育科目は、22名の教授、17名の准教授・専任講師・助教が、それぞれの科目を担当し、専門教育との連携を図りつつ幅広い教養教育を行っている。

##### ＜生物資源科学研究科＞

生物資源科学研究科の教員は、博士の学位を必須としている。教員に求められる能力・資質等は、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に従って研究業績、教育実績、経歴、人物等に基づいて総合的に判定している。本研究科は、「生物資源生産科学専攻」、「生物資源利用科学専攻」、「応用生命科学専攻」、「生物環境科学専攻」、「生物資源経済学専攻」の5専攻から構成されており、いずれの専攻も設置基準を超える十分な数の教員が配属されている。専攻内の分野は、㊦教授と科目担当の准教授・専任講師等で構成されており、各教員の綿密な連携の下に、教育・研究を進めている。なお、現在「大学院担当教員の資格審査基準」の制定を検討している。

##### ＜獣医学研究科＞

獣医学研究科は、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の6分野から構成されている。それぞれの分野の教育・研究目標に沿った教員を選考しており、現在、大学院設置基準8名の2.5倍となる20名の教員が配置されている。教員の採用・昇格に当たっては、博士の学位を持つことを必須として、本学所定の審査基準に則して厳正・公平な審査を行っている。大学院担当教員の資格審査及び研究活動の評価は、教員の科研費の申請・採択、外部資金の獲得、研究業績（発表論文数、筆頭著者数、インパクトファクター）などを勘案して行っている。特に大学院担当教員の研究業績は、学部内規より高い基準を設けて研究活動を恒常的に評価し、活性化を図っている。

### 点検・評価項目⑬

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

## 【現状説明】

### ＜生物資源科学部＞

生物資源科学部の設置基準上の必要教員数は、教授 92 名、准教授・専任講師・助教 92 名の 184 名であるが、現在の教員数は、教授 117 名、准教授・専任講師・助教 133 名の 250 名（2018 年 5 月 1 日現在）であって、設置基準に対して約 1.35 倍となっている。また、各学科の専門性に対応して少なくとも 6 つ以上の研究室に所属し、それぞれが有機的に連携しながら教育・研究を行っている。授業科目担当者を決定する際、各学科において教員の研究業績及び専門性、担当授業時間等を勘案し、学科教授の署名・捺印の上、学科主任の申請により教授会で審議された後、学部長が決定している。また、本学部では在学生の約 4 割が女子学生であることから、助手を含めて 86 名の女性教員を採用している。全学科に複数名の女性教員を配属されているため、女子学生に対しても適切な指導ができる教員構成となっている。年齢構成については、60 代が 19.6%、50 代が 30.4%、40 代が 32%、30 代が 18% となっており（大学基礎データ [表 5]）、偏りのない年齢構成になるように配慮している。

### ＜生物資源科学研究科＞

生物資源科学研究科では、5 専攻から構成されており、5 専攻はさらに 4～5 の専門分野に細分化されている。各専攻には、設置基準を満たす適正な数の大学院教員が配置されている。大学院教員の任用に当たっては、専攻・分野にふさわしい研究業績、学会活動等の有無について㊦教授全員で審査を行って、授業科目との適合性を判断し、人事委員会に上申している。人事委員会で適切と判断された場合、分科委員会における承認を経て、研究科長が決定する。

### ＜獣医学研究科＞

獣医学研究科では、6 分野から構成されており、6 分野に適正な数の大学院教員が配置されている。大学院教員の任用にあつては、○合教授全員で各分野の大学院教員の研究業績、学会活動等を参考に授業科目との適合性を審議した上で、人事委員会に上申する。上申された人事案件は、最終的には、分科委員会における承認を経て、研究科長が決定する。

## 点検・評価項目⑭

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

## 【現状説明】

### ＜生物資源科学部＞

生物資源科学部では、「教員規程」及び「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に基づき、採用及び昇格等の人事を行っている。各年度の 7 月に学部執行部で当該年度の人事方針を検討した後、学部次長（人事担当）が人事方針を各学科主任に提示する。その後、各学科内で採用、昇格及び再任案件を審議した後、学部次長と事前面談を行う。事前面談の内容を人事委員会で検討し、学部次長はその結果を学科主任に伝える。学科主任はその結果を改めて学科で検討した後、学科教授の署名・捺印をうけた申請書が学科主任を通じて学部人事委員会に提出される。学部人事委員会は、申請書を

もとに協議し、適格と認められた者は、さらに人事委員会と学部長による面接を行う。面接を通過した者は、教授会で日本大学における教育者・研究者としての適格性が審議された後、学部長が承認し学長へ内申する。

#### <生物資源科学研究科>

生物資源科学研究科では、各専攻の㊦教授によって、候補者の大学院担当教員としての適格性を研究業績、教育実績、経歴、人物等から総合的に判定される。これらの基準は、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に従っている。適格者の任用には、人事委員会、執行部会、大学院分科委員会の審議、承認を経て、研究科長によって承認され、学長へ内申する。日本大学の教育者・研究者としての適格性は、研究科長・人事委員会の面談で十分に確認している。

#### <獣医学研究科>

獣医学研究科では、㊦教授によって、当該教員の研究教育分野とその配置、大学院担当教員としての適格性について、候補者の研究業績、教育実績、経歴、人物等をもとに総合的に判定している。これらの基準は、基本的には、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に準じているが、研究業績については、内規を上回る基準を設けて判断している。適格者の任用については、人事委員会、執行部会、大学院分科委員会の審議承認を経て研究科長が承認し、学長へ内申する。日本大学の教育者・研究者として適格性は、研究科長・人事委員会の面談にて十分に確認している。

両研究科長は大学院研究科教員に対して本学における教育研究の在り方について訓示している。

#### 点検・評価項目⑮

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

#### 【現状説明】

#### <生物資源科学部>

生物資源科学部では、FD委員会を中心にFD活動を組織的に実施しており、学内外の講師を招いて教育手法や大学教育を取り巻く環境に関するセミナーやワークショップを毎年複数回開催している。また、日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD Newsletterを全教員へ周知徹底している。さらに、一般教養課程（教職・学芸員課程を含む）では、理工学部、生産工学部、工学部及び薬学部とともに「理工系五学部一般教育合同会議」を平成8年から2年毎に開催し、教育に関わる諸問題に関するワークショップを開催している。

学部として教員の教育研究活動等の組織的な評価を行うことが必要であると認識しているが、現在のところ、実施に至っていない。しかし、各教員は学生による授業アンケートを最低1つの科目で実施しており、シラバスと授業内容との整合性、学生の授業時間外の学習時間数及び学生の理解度などを把握することができ、授業改善に役立てることが可能である。

生命農学科、生命化学科、海洋生物資源科学科及び生物環境工学科では、演習委員会や

学生実験委員会などを設置し、これらの委員会を中心に演習や実験の授業内容の定期的な検証を行い、その結果を教育内容や方法の改善に結びつけている。また、海洋生物資源科学科及び生物環境工学科では JABEE の認証評価に伴う教育改善のための P D C A サイクルを実施し、教育の質の改善・向上に取り組んでいるほか、教員に対する学生の意見によるベストティーチャー賞を設け、教員の教育内容や方法の改善を推進している（資料 1-16, 1-23）。

#### ＜生物資源科学研究科＞

生物資源科学研究科では、研究科独自の F D 活動は行っていないが、学部及び獣医学研究科一体となり教員の資質の向上を図っている。

#### ＜獣医学研究科＞

獣医学研究科独自では、研究科独自の F D 活動は行っていないが、学部及び獣医学研究科一体となり教員の資質の向上を図っている。

### 点検・評価項目⑯

教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

#### 【現状説明】

##### ＜生物資源科学部＞

学部執行部では各学科を中心に、カリキュラムポリシーに則った教育の実施について常時検討を行っている。さらに、受験生や社会の動向、教員の教育・研究の状況、研究室の教員配置の適切性等の情報をもとに、各学科の主任教授と綿密に連携を取りつつ中長期的な人事計画を協議している。人事委員会は学部長と綿密に連携・協議しながら、適正な教員組織の構築に務めている。また、各学科主任は学科の教員に対し、日本大学の教員としての資質や素養、適正な教員組織の構築に必要とされる事項について、学科会議等を通じて周知を行っている。

##### ＜生物資源科学研究科＞ ＜獣医学研究科＞

生物資源科学研究科及び獣医学研究科では、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に基づき、教員人事（採用、昇格及び再任）・教員組織を人事委員会にて協議し、執行部会議、分科委員会にて十分に審議した上で、研究科長昇任し、学長へ内申する。人事委員会は教員人事・教員組織を協議する際に、各専攻の専攻主任と面談を行っており、教員の教育・研究状況、研究室の教員配置の適切性、中長期的な昇格・採用計画を確認している。人事委員会は研究科長と綿密に連携しながら、適正な教員組織について十分な協議を行っている。

---

#### 【長所・特色】

教員組織の編成については、毎年出される「教学に関する全学的基本方針」に則り、執行部内で協議している。教員の新規採用、昇格及び再任等は、各年度の早い時期に学科主任から提出された人事案件について、執行部で各学科の教育・研究状況ならびに学部予算

等を勘案して検討している。その後、人事委員会及び学部長との面談を経て、教授会にて審議され、学部長が決定する過程を行っているため、日本大学のガバナンスと教学基本方針が全学科に十分に徹底されている。

#### 【問題点】

特になし

#### 【全体のまとめ】

本学部の教員組織は、学部長及び研究科長を中心として、人事委員会、各学科主任を通じて日本大学の理念・目的に基づいた学生教育を実践するため、それに合致した教員の採用と育成ならびに教員組織の編成を行っている。今後、より一層の教育・研究成果の向上を目指した評価・改善を行っていききたい。

#### 【根拠資料】

3-1	「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」
3-2	F D活動記録

生物資源科学部，生物資源科学研究科，獣医学研究科の改善意見

(計 1 件)

基準	I 教育課程・学修成果
改善事項	(生物資源科学部) グローバル・スタンダード及び 18 歳人口の減少を踏まえた学部教育の実践
改善の方向及び具体的方策	<p><b>[改善の方向]</b></p> <p>グローバル化の進展及び 18 歳人口の減少に伴い，これまでの国内での基準や常識から脱却し，グローバル・スタンダード及び学生の学力に沿った教育の実践が必要とされている。このような背景を踏まえ，単位の実質化や P D C A を考えた以下の 3 つを改善の方向として掲げる。</p> <p>①これまでの授業時間を主体とした授業から，授業時間外の学修を含めた反転授業型の授業を実践する。</p> <p>②各教員が行った授業が，学生の能力向上につながっているかを検証し，必要に応じて改善を図ることを，これまで以上に組織的に行う。</p> <p>③「日本大学教育憲章」に定める「日本文化」，「日本人の気質」，「世界の現状」などについて，学生が理解を深められるよう，世界を知り，日本を知る機会の拡充を図る。</p> <p><b>[具体的方策]</b></p> <p>①各教員にとっては授業の計画であり，また，学生にとっては学習の手引きであり授業を理解するための道標であるシラバスの拡充を図る。具体的には，当該授業と D P や C P との関連性，到達目標に対応した評価方法，授業時間外学修の内容及び目安となる時間数，並びにレポートや試験等のフィードバックの方法などの項目欄をシラバス上に設ける。</p> <p>②各授業では，各回において読むべき論文・書籍等の一覧，授業の構造を図解化したグラフィック・シラバス及びループリックを用いたより客観的な成績評価基準などを学生に配布する。</p> <p>③アクティブ・ラーニングのより一層の推進を図るべく，録画した授業のオンラインでの提供及び ICT 機器を活用した授業を実施する。</p> <p>④学生の授業評価アンケート結果の公表を行う。また，アンケートの結果，学生からの評価が一定の基準以下の場合，当該教員に対し授業改善計画書の提出を求めるとともに翌年度以降の改善状況を確認する。</p> <p>⑤多様な外国人留学生の受け入れ及び外国人留学生の交流拠点の整備等を行い，日本人学生との交流の機会及び国際交流関連のセミナーなどを提供する。</p> <p>⑥上記の方策を支援するための F D 活動を適宜行う。</p>

改善達成時期	平成 32 年度
改善担当部署等	学務委員会，学生生活委員会，FD 委員会，教務課，学生課